

羽ばたけ

アフリカの未来をきり拓く

リーダーたち

Ashinaga Africa Initiative



あしながアフリカ遺児
高等教育支援 100年構想



ASHINAGA

一般財団法人あしなが育英会

アフリカに貢献する高い志を育む

私自身、母を加害者の無謀運転による交通事故で亡くしました。以来、遺児支援を天命と思い、半世紀以上を歩んできました。遺児が最愛の親を失った心の傷を癒やし、親のある子どもと同等に教育を受ける機会を得て、いきいきと生きる場所を見出してくれること。そして、後輩の遺児を支援する側になってくれること。さらに自他の幸せ創造のために活躍する人となること。それが私の変わらぬ目標です。



ウガンダの子どもたちに、志の大切さを話しました（2010年10月、渋谷敦志撮影）

1960年代、交通事故で親を亡くしたり、またはそれが原因で親が重い障がいを負った子どもたちの進学支援から始まった「あしなが運動」は、災害、病気、自死遺児へと対象を広げてきました。そして、1995年の阪神・淡路大震災では、世界中から支援を受けた日本の遺児たちが、「受けた恩を、世界で最も苦しんでいる子どもたちを助けることで返していこう」と提案し、アフリカの遺児支援へと歩みを進めました。

2050年には、世界人口の約4分の1がアフリカに集中すると言われています。豊富な資源と成長の大きな可能性を持つ一方、貧富の格差や気候変動の影響など様々な課題にも直面するこの大陸にとって、教育を通じた人材の育成は欠かせません。母国や地域の発展を担う若者が、それぞれの分野でリーダーとして活躍することが求められています。

喪失体験を抱える遺児たちは、他者への深い共感力と、逆境を乗り越える強靭さを備えています。そうした若者が、教育を通じて自らの才能を発揮し、思いやりあるリーダーとなって社会に貢献し

ていくこと。そして、自分が受けた愛を、他の誰かを支えることで次に繋げていく「愛のリレー」の精神で、支援の循環を未来へとつなげていくこと。この実現のため、当事者自身の主体性と行動力を大切にしてきたあしなが運動は、2014年、アフリカに貢献する将来のリーダーを育成する「あしながアフリカ遺児高等教育支援100年構想：Ashinaga Africa Initiative (AAI)」を開始しました。

2014年の開始から11年目を迎えた現在、世界の大学で学び、国際的な視野と「志」を育んだ卒業生たちは、それぞれの分野でアフリカに貢献し始めています。高い志を掲げてWork Hardする遺児たちの挑戦を、これからも皆さんと共に応援していけることを願っています。私たちの地球の未来の在り様は「分断」ではなく「共生」と確信しつつ。

一般財団法人あしなが育英会

創設者・会長

玉井 義臣

Future Leaders for Africa!



留学準備期間合宿のために、あしなが育英会の教育拠点「ウガンダ心塾」に集まったAAI10期生（2024年7月）

Ashinaga Africa Initiative (AAI: あしながアフリカ遺児高等教育支援100年構想)とは、サブサハラ・アフリカ地域の各国から優秀で、かつアフリカに貢献する志を持った遺児を選抜し、世界の大学に留学する機会やリーダーシップの育成を通して、将来様々な分野で活躍し、アフリカの発展を担う若者を育てようという構想です。人材育成によって、サブサハラ・アフリカ地域の未来に貢献することをミッションとし、2014年に開始されました。

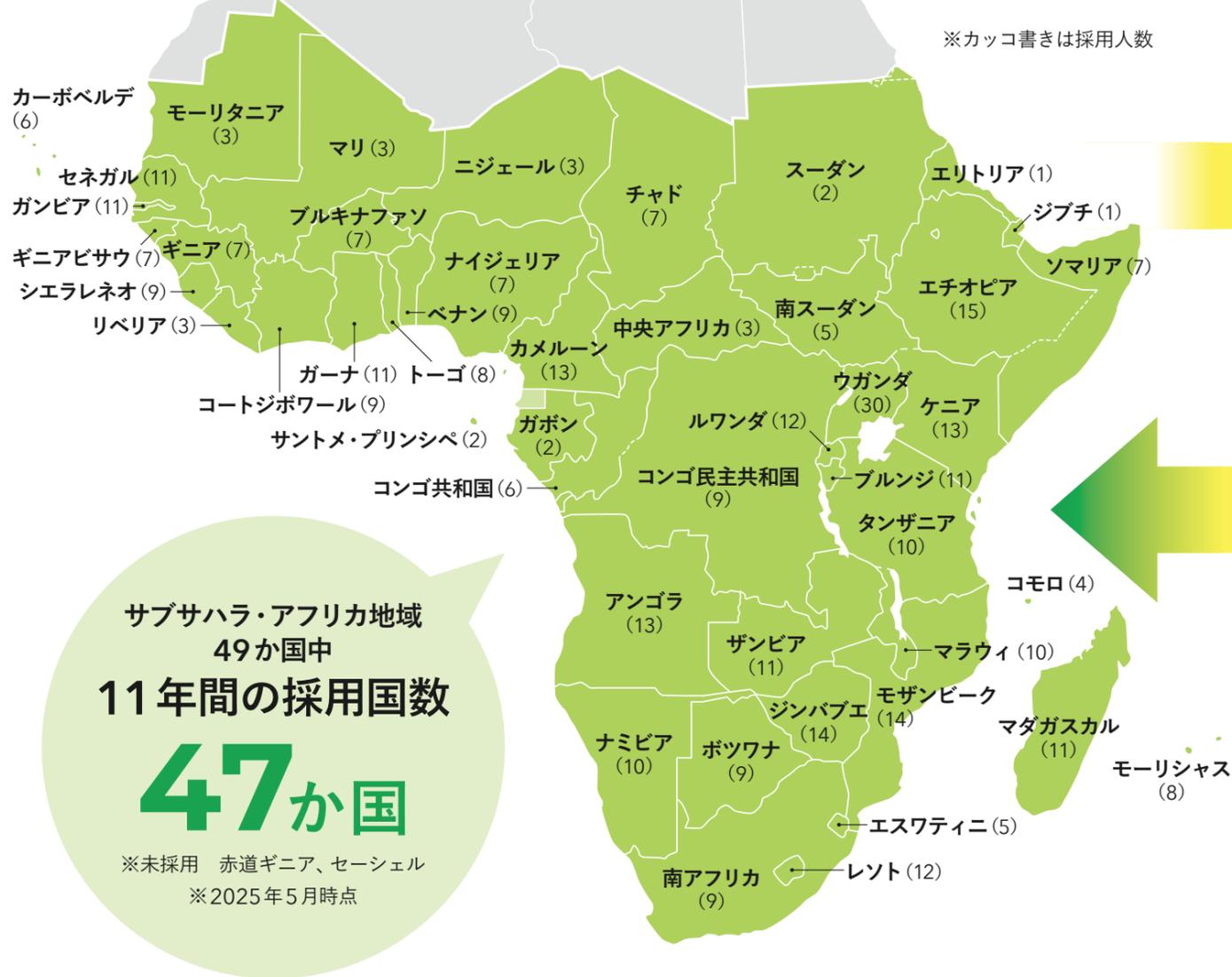
一般財団法人あしなが育英会

1993年設立。病気や災害、自死（自殺）などで親を亡くした子どもたちや、親が障がい働けない家庭の子どもたちを、奨学金、教育支援、心のケアで支える民間非営利団。団体名は、米国の小説「あしながおじさん」に由来。

スタートから11年、約400名を採用



世界の大学で学び、リーダーシップを育む



サブサハラ・アフリカ地域
49か国中
11年間の採用国数
47か国
※未採用 赤道ギニア、セーシェル
※2025年5月時点

AAI生の道のり



1 学生選抜
優秀でアフリカに貢献する志の高い学生をサブサハラ・アフリカ地域の各国から原則毎年1人選抜

2 留学準備期間
集中合宿やオンライン研修により、進学準備とリーダーシップ育成

3 大学進学
日本をはじめ、欧米やブラジルの大学に進学



4 志を育む
アフリカでのインターンシップや、あしながプロポーザルなどを通し、アフリカの課題に自ら取り組み、ネットワークを広げる

5 卒業
志の実現に向け、進路を選択

6 アフリカに貢献
サブサハラ・アフリカ地域でよりよい社会を作るために貢献

リーダーシップ研修「留学生のつどい」。あしなが日本人奨学生とも交流を深めた
(2024年3月、東京の国立オリンピック記念青少年総合センター)



AAIの特徴

- サブサハラ・アフリカ地域 49か国を対象
- 優秀で社会貢献意識の高い学生を選抜
- 留学準備期間の合宿やオンライン研修
- 世界の大学への進学をサポート
- 豊富なリーダーシッププログラム
- 日本語学習など日本社会との共生支援
- アフリカでのインターンシップ
- アフリカの課題解決を提言する「あしながプロポーザル」

リーダーシップを鍛える独自のプログラム

採用から大学卒業まで、包括的な支援とリーダーシッププログラムを通して人材育成を行っています。



学生選抜

社会に貢献する高い意識を持ちながらも、経済的に進学が困難な遺児を選抜。原則、毎年各国1名という狭き門を通過したAAI生たちは、各国代表としての期待を背負います。



アフリカでのインターンシップ

AAI生には、大学卒業までにアフリカで約2か月間のインターンシップを行うことが課されています。留学中も、アフリカの課題に目を向け、現地でのネットワークを構築することが求められます。



留学準備期間

日本をはじめ世界の大学に進学するため、対面合宿やオンラインで勉強をサポート。リーダーシップ研修もスタートします。日本に留学する学生は、留学準備期間中に日本語も学びます。



留学生のつどい

リーダーシップ研修「留学生のつどい」を年に一度開催。全国のAAI生が一堂に会します。リーダーに求められるスキルや資質を学ぶほか、志を仲間と共有し、互いに励みを与えあう機会となっています。



あしながプロポーザル

AAI生は、母国やコミュニティの課題とその解決策を調査し提言する「あしながプロポーザル」を作成します。留学準備期間から着手し、大学卒業までの期間をかけて提言にまとめます。これにより、課題解決思考が養われます。

人と出会い、文化にふれ、日本を知る

あしながの日本人奨学生や地域との交流を通じて、AAI生は日本の文化や習慣を学んでいきます。



日本語学習支援

来日後は日本語の個別授業や日本語能力試験の受験を支援しています。大学入学前に1～2年、語学学校で日本語を学ぶ「日本語トラック」制度もあります。



あしなが学生募金

毎年春と秋に全国で実施される「あしなが学生募金」では、AAI生も街頭に立ちます。支援者であるあしながさんへの感謝の気持ちや、後輩遺児を想う心を養います。

学生寮

あしなが育英会が運営する学生寮「あしなが心塾」(東京都日野市)と「虹の心塾」(兵庫県神戸市)では、日本人の奨学生に交じり、近隣の大学に通うAAI生も生活しています。「礼儀・挨拶」を大事にしている心塾では、日本の生活で大切な社会性が身に付きます。



地域との交流

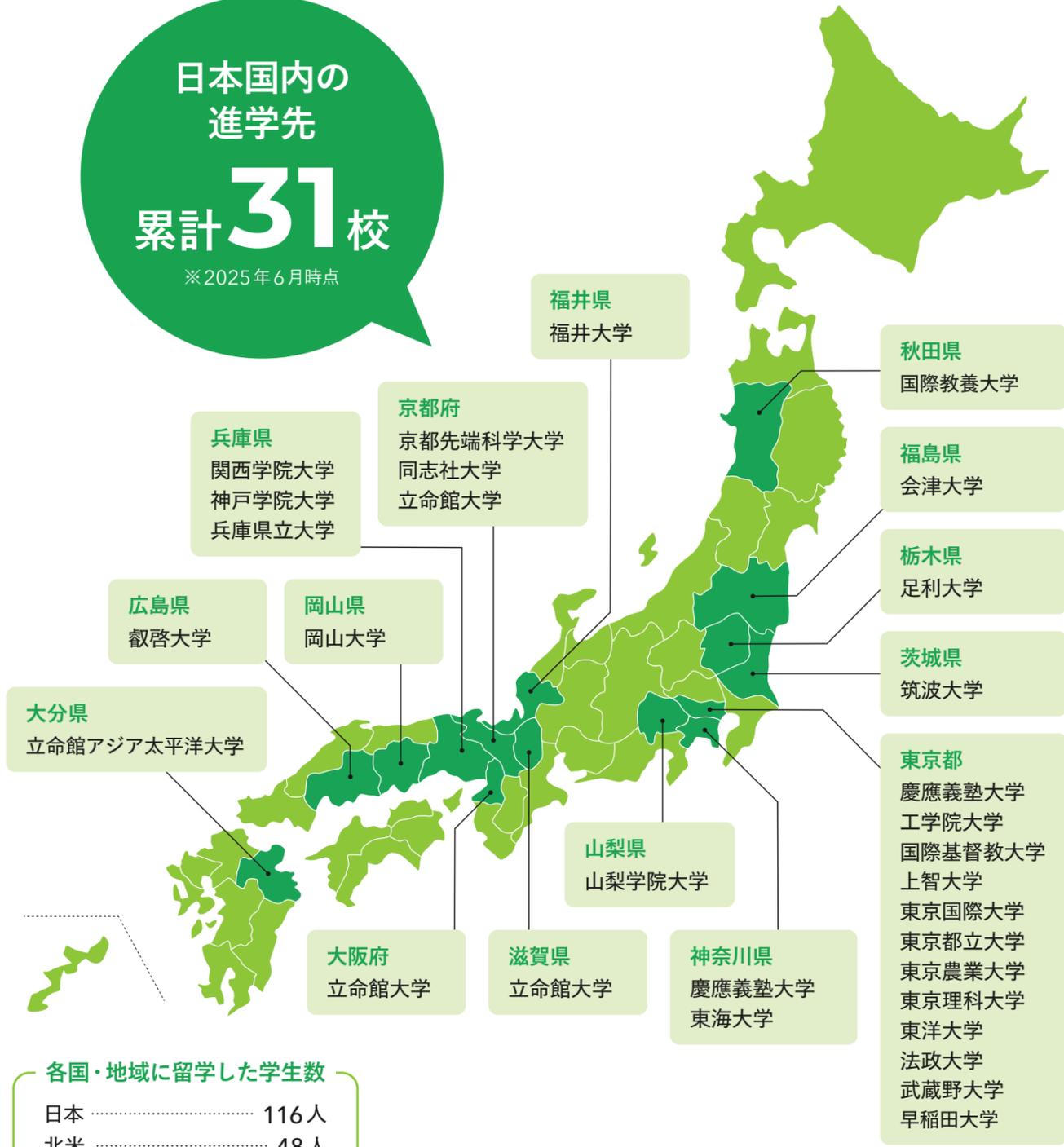
AAI生には地域のイベントやボランティア活動などへの参加を促しています。学生たちは地域社会の一員であることを実感でき、行動力も磨かれます。

日本の大学で学ぶAAI生

日本で学び、アフリカの未来を見据える

現在、約50人のAAI生が日本国内の大学や語学学校で勉強しています（2025年5月時点）。

日本国内の
進学先
累計 **31** 校
※2025年6月時点



各国・地域に留学した学生数

日本	116人
北米	48人
英国	61人
欧州	71人
ブラジル	34人
その他	4人

※留学準備期間等の学生を含まない
※2025年6月時点

日本に留学しているAAI生は、全国の国公立大学、または連携協定を締結し学費を免除いただいている私立大学に通っています。受験先は、学生が学びたい分野や語学力などを考慮し、本人と相談して決まります。受験準備や出願のサポートも行っています。



メルシーさん

出身国
ルワンダ

進学先
会津大学
コンピュータ理工学部4年

活動内容 ▶ 日本の電子機器メーカーにてエンジニアのインターンを経験。カーナビのソフトウェア設計に携わる。
志 ▶ アフリカの小規模ビジネスの成長を支える実用的なIT技術の提供
好きな日本語 ▶ 一步一步



アブドウさん

出身国
ベナン

進学先
早稲田大学
社会科学部3年

活動内容 ▶ 日本とアフリカの若者がお互いに良い影響を与えられると信じ、在日アフリカ人ネットワーク(ADNJ)のメンバーとしてYouthTICAD 2025等の活動に参加。
志 ▶ ベナンにおける地域医療アクセスの改善推進
好きな日本語 ▶ 思いやり



アルファクサッドさん

出身国
タンザニア

進学先
京都先端科学大学
工学部3年

活動内容 ▶ スワヒリ語話者向けのAIモデル「Gemma 2 Swahili」を開発し、Google主催のコンペGoogle - Unlock Global Communication with Gemmaで優勝。
志 ▶ アフリカの医療・農業・インフラを支える技術革新の推進
好きな日本語 ▶ 継続は力なり



デボラさん

出身国
ガーナ

進学先
立命館アジア太平洋大学
国際経営学部4年

活動内容 ▶ 地域住民や高校生との交流を通じ、自国の紹介や経験の共有を行い、国際理解の促進に取り組む。
志 ▶ ガーナの若者の失業率改善に貢献する職業訓練の提供
好きな日本語 ▶ やればできる



ジヴァさん

出身国
マダガスカル

進学先
東京農業大学
地球環境科学部2年

活動内容 ▶ 日本語トラック生として大学での講義を日本語で履修。異文化交流イベントにも積極的に参加。
志 ▶ マダガスカルの廃棄物処理問題の解決
好きな日本語 ▶ 一期一会

架け橋として活躍する卒業生

アフリカで事業を展開している日本企業に就職し、
ビジネスを通してアフリカの発展に貢献しているAAI卒業生もいます。



「ペテモヤさん

(コンゴ民主共和国出身/福井大学2024年卒)

横河電機株式会社

エネルギー&サステナビリティ事業本部 アフリカビジネス推進センター

現在の業務を通じて、「日本の技術とアフリカを結び付け、社会課題を解決する」という志の実現に取り組んでいます。具体的には、アフリカの鉱物資源分野におけるビジネスソリューションの推進や、グリーン水素プロジェクトへの参画などに従事しています。アフリカと日本のビジネス文化の違いを理解し、それを業務に活かすことを大切にしています。将来的には、アフリカでプロジェクトをゼロから立ち上げ、雇用の創出を通じて地域の発展に貢献することを目指しています。

「ウォルターさん

(ウガンダ出身/東海大学2023年卒)

株式会社トロムソ

大学3年次に、アフリカの農家の課題解決に役立つブリケット(木質固形燃料)に関心を持ち、関連機械の見学を希望して現在の勤務先と出会いました。その後インターンを経て入社に至りました。

現在はアフリカからの顧客対応を担当し、企業と現地の橋渡し役として、円滑なコミュニケーションに努めています。加えて、アフリカ現地への出張では機械の修理や技術者へのトレーニングも行っており、現地人材の育成に貢献できることに大きなやりがいを感じています。



「アルベルトさん

(ベナン出身/関西学院大学2021年卒)

清水建設株式会社

ジャカルタ営業所

就職活動では「アフリカで働くこと」と「経理の仕事に携わること」を重視し、いずれも実現できると感じて今の会社に入社しました。日本で経理部門等を経験した後、現在はジャカルタ営業所にて、人事や法務を含む幅広い業務に従事しています。アフリカ関連業務に関わる機会もあり、昨年6月にはベナンへ事前市場調査の目的で行きました。人々の安全な日常を支えるインフラづくりの一端を担っていることに、深い意義を感じながら業務に当たっています。

「アフリカと日本を知る貴重な人材」

AAI卒業生を採用した企業から

「長谷川 剛さん

横河電機株式会社

エネルギー&サステナビリティ事業本部

アフリカビジネス推進センター長

当社では、現在ペテモヤさんを含め3名のAAI卒業生が勤務しています。AAI生には、日本語での高いコミュニケーション能力と、日本文化への理解があります。全てを説明しなくても、意図をくみ取って動いてくれるので、助かっています。また、AAIの厳しい選考を経ているだけあり、優秀で仕事の呑み込みが早いです。指示を待つのではなく、主体的に動いてくれる点も、大きな魅力です。

私たちは現在、アフリカでの事業展開を進めていますが、その成功には、日本とアフリカのビジネス環境に精通した人材が欠かせません。ペテモヤさ



んにはモーリタニアの行政機関との関係構築を任せましたが、先方の意図を細かなニュアンスまでくみ取り、信頼関係を築いてくれました。彼のような人材こそ、将来、日本とアフリカをつなぐ現地リーダーとして活躍してくれると期待しています。

「上杉正章さん

株式会社トロムソ

代表取締役社長

インターンを希望して当社にやってきた時から、「ガッツがある学生だ」と感じていましたが、社員に雇用してみると、想像以上でした。彼には、ちょっとやさっとではくじけない強さがあります。私自身がタンザニアに現地調査に行った際、当社の事業のアフリカでの可能性は大きいと思いました。ウォルターさんは当社で初めてのアフリカ出身の職員で、海外向けの事業説明では中心となって対応したり、アフリカ出張で現地技術者のトレーニングに関わる等、アフリカでの事業拡大に向けた戦力となっています。彼はよく「日本とウガンダの架け橋になって、ウガンダを良くしたい」と語っているので、必ずしも設計技術者にとどま



る必要はない。コミュニケーション力や協調性が高いので、経営者としての素質もあるかもしれません。将来に向けて、自分のやりたいことや強みを見つめながら、歩いていってほしいと願っています。

アフリカの社会課題に取り組む

NPOなどの社会貢献活動に取り組んでいるAAI卒業生。



ロシーナさん

(南アフリカ出身/岡山大学2023年卒)

私はAAI生として日本に留学し、岡山大学で医療人類学を学びました。在学中に、南アフリカの性暴力や貧困、教育の機会を奪われた若い女性たちを支援するNPO「Tina Organization」を立ち上げました。女性たちが困難な状況を抜け出し、自らの未来を築く力を身に付けられるよう、支援をしています。

私の活動の原動力は、HIV/AIDSで母を亡くした自分自身の経験です。その辛い経験があったからこそ、「同じように苦しんでいる女性たちの力になりたい」と、心から思えるんです。

今はソマリランドのバルワーコ大学という女子大学で、教育学を教えながら、NPOの活動も続けています。一人でも多くの女性に、希望と力を届けるのが私の使命です。

ロバートさん

(ウガンダ出身/山梨学院大学2021年卒)

私は幼い頃に両親を亡くし、地元の孤児院「サマニャ」で育ちました。

AAI生として大学を卒業後、今は博士課程で学びながら、サマニャの代表としても活動しています。閉鎖寸前だった孤児院を守りたくて、運営を引き継ぐ決意をしました。サマニャで生活する約100人の子どもたちを、ストリートチルドレンにするわけにはいきません。「やるしかない」と思いました。子どもたちが安心して暮らせる環境づくりに加えて、地域のシングルマザーへの起業支援や、農業を活用した生計向上の取り組みなども進めています。地域の貧困を根源から無くすためです。

国を隔てていても、想いと行動は届きます。自分のような境遇の子どもたちに、夢を描くきっかけを与えたい。そして、自分を育ててくれた地域の未来を、少しでも良くしたいという思いで、日々活動しています。



私たちがAAIを応援しています

ビジネスリーダー、文化人、芸術家、アスリートなど、各界で世界的に活躍する方々が、AAIのビジョンに賛同し、応援してくれています。

ジェームズ・ムワンギさん

ケニア出身。エクイティ・グループ・ホールディングスCEO/エクイティ・グループ財団創設者。アフリカの金融サービスへのアクセス改善と次世代教育を牽引する社会変革リーダー。

AAIは、単なる教育支援の枠を超え、アフリカの未来を根本から変える壮大な挑戦です。この構想に私は深く共感し、心からの敬意と応援を送ります。

この取り組みが目指すのは、困難な境遇にある若者たちに、ただ学ぶ機会を与えるだけではなく、真の意味での「変革の担い手」を育てること。リーダーとは、知識を得た者ではなく、それを生かして社会に貢献する者です。AAIは、まさにそのような人材をアフリカ各地から育て上げようとする先見的なプログラムです。

日本での学びは、視野を広げ、謙虚さや規律、そして社会に尽くす精神を培う貴重な機会です。この



経験が、帰国後に地域や国の発展に具体的な形で還元されることを、私は強く期待しています。

私は、AAIが未来のアフリカを創る土台になると信じています。このビジョンに関わるすべての方々、そしてAAI生の皆さんに、心からのエールを送ります。あなたたちの志が、100年先の希望となるのです。

ジェームス・ポリバ・ババさん

ウガンダ国会議員/元駐日ウガンダ大使/元ウガンダ国務大臣。2001年から2005年に駐日大使を務めた後、外交官から政治家に。

AAIは、ただの奨学金制度ではありません。これはアフリカの未来を担うリーダーを育てる“使命”を持ったプログラムです。私は外交官や政治家として、また一人の支援者としてその進化を見守ってきました。世界のトップ大学での学びは特権であると同時に責任です。学生たちが卒業後どのような道を選択するにしても、自分の学びを社会の力に変えること。それがAAIの真の成果です。



この取り組みに共感し、若者たちの挑戦を応援する仲間がさらに広がっていくことを、心から願っています。

あしなが育英会アフリカ遺児支援のあゆみ



左: AAI1期生と玉井本会会長。この10か国10人からプログラムがスタートした(2014年)
 右上: 第8回国遺連。"No War", "愛"。寄せ書きで架けた遺児たちの希望の虹(2007年)
 右下: 子どもたちに心のケアや基礎教育を提供する「ウガンダレインボーハウス」

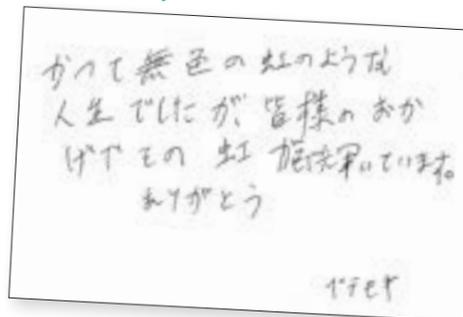
1995年	阪神・淡路大震災が発生。震災遺児支援のため、世界150か国から本会に寄付が集まる
1999年	世界からの寄付を基に、震災遺児の心を癒す「神戸レインボーハウス」が竣工
2000年	コロンビア、トルコ、台湾で大地震が発生。震災遺児らが「恩返しをしよう」と街頭募金を行う 地震被災国とコンボ紛争の遺児を日本に招き第1回国際的な遺児の連帯を進める交流会(国遺連)開催 国遺連は2007年まで8回行われ、本会の海外遺児支援活動の土台となった
2002年	HIV/AIDSが世界的に拡大する。特に深刻なアフリカでは多くの遺児が生まれ、神戸の震災遺児らから「遺児の仲間を支援しよう!」の声があがる。本会は被害が甚大だったウガンダの調査に職員を派遣
2002年	国際NGO「あしながウガンダ」事務所を開設。ウガンダでの遺児支援活動スタート
2003年	ウガンダの首都カンパラ近郊にあるナンサナ市に心のケア活動拠点「ウガンダレインボーハウス」開設
2006年	心のケアプログラムに参加していた遺児のリタさんが、早稲田大学国際教養学部合格
2007年	アフリカの遺児の可能性を確信し「読み書き算数」のテラコヤ教育をレインボーハウスで開始
2012年	玉井本会会長がウガンダのマケレレ大学で講演し、あしながアフリカ遺児高等教育支援100年構想(AAI)を発表
2014年	AAIスタート。第1期生として10人が採用される

アフリカのリーダー育成に

共に取り組みませんか

アフリカの未来を切り拓く次世代リーダーの育成にご賛同・ご支援いただける方を募集しています。
 企業・団体・教育機関・個人など、
 皆さまからのご協力をお願い申し上げます。

AAI生からあしながさん(ご支援者)へメッセージ



様々なご支援方法

1. ご寄付による支援

AAI(あしながアフリカ遺児高等教育支援100年構想)へのご寄付をお願いしております。皆様のご支援が、アフリカの未来を担う人材を育てます。

2. 専門性や物品による支援

皆様の持つスキルやご経験、物品をご提供いただくことで、アフリカからの学生たちの学びや生活を直接支えることができます。

- **キャリア支援:** インターンシップや雇用機会の提供、社員様との交流会など
- **留学生活支援:** 日本語指導、学習用PCのご寄付、生活相談など
- **その他:** 渡航のための航空券、リーダーシップ研修の機会提供など

3. 広報・連携による支援

私たちの活動を、共に広めていただけませんか。自社メディアでのご紹介やイベントの共催などを通じて、アフリカ遺児支援の輪を社会全体に広げるためのご協力をお願いしております。

アフリカ事業部 contact@ashinaga.org

継続のご寄付・都度(1回)のご寄付のいずれもお選びいただけます。
 以下の方法でお手続きが可能です。

● ご寄付の方法

クレジットカード、ペイジー、ゆうちょ銀行振込、コンビニ振込、銀行振込に対応しています。

● ご寄付の使いみち

「アフリカ遺児の教育支援」など、使いみちを指定することも可能です。

● 詳細・お申し込み

右記のQRコード、またはご寄付方法をまとめた資料「ご寄付のご案内」を郵送いたします。以下の連絡先までお気軽にお問い合わせください。

お問い合わせ・ご相談(寄付課)

フリーダイヤル **0120-916-602** (平日10時~16時)

supporter@ashinaga.org

寄付金控除について: 本会は一般財団法人のため、本会へのご寄付は、個人の方につきましては所得税法第78条第2項の寄附金には該当せず、所得控除や税額控除の対象にはなりません。法人につきましては、法人税法第37条第3項に規定する寄附金(公益団体に対する寄附金)には該当せず、一般寄附金として扱われます。



寄付をする



概要を見る



AAIの概要はウェブでもご覧いただけます。



レポートを読む



AAIの活動やAAI生についてより詳しく知りたい方は
「アフリカ遺児支援レポート」(年2回発行)をご覧ください。